

事業所における自己評価結果(公)

公表:令和 5年 11月 22日 スタッフ数:7(回収7)

事業所名 bonキッズ北堀江

		チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いえない	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	0%	利用児童が快適に過ごせるようにスペースの有効活用に努めています。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	0%	配置基準+1の職員配置をしています。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	57%	0%	43%	利用児童の特性に合わせた物理的配慮に出来る限り努めております。事業所が階段のみの2階部分であるので補講に困難のある利用者には介助を行っております。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	0%	子どもたちの活動に合わせて出来る限り心地よく過ごせるように今後も配慮してまいります。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	0%	今後もPDCAサイクルを意識して職員間での情報共有に努めてまいります。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	0%	事業所評価アンケートに加えて事業所独自のアンケートを実施し、保護者の意向把握に努めてまいります。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	0%	2017年よりホームページでの公表を行っております。今後も職員間での周知に努めてまいります。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%	0%	0%	外部講師に現場を見学していただき、スーパーヴァイズを受けております。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	0%	自閉症eスタイルジャパンの研修受講をスタッフに奨励し、支援技術の向上に努めております。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、支援計画を作成している	100%	0%	0%	療育開始時のアセスメントに加えて随時評価を行って、保護者の意向も伺いながら支援計画を作成しております。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	0%	療育開始時や進学時期に評価キットB1B2など独自のアセスメントツールを使用しアセスメントを行っております。
	12	児童発達支援計画・放課後等サービス支援計画には、「児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	0%	29%	71%	現在はオフィスぼんで共通した項目「学習」「身辺自立(ライフスキル)」「余暇」「行動管理」「コミュニケーション」などの領域から目標が設定されている。随時ガイドラインに沿った支援計画に変更していく。
	13	支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	0%	支援計画に沿った支援が行われています。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	0%	主任スタッフを軸にスタッフ間で意見交換してプログラムを立案しております。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	0%	療育修了後スタッフ間でミーティングを行い利用児童に合わせたプログラムの提供を話し合っております。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる支援計画を作成している	100%	0%	0%	利用児童の状況や保護者のニーズに合わせた支援計画を策定しております。

		チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いえない	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	0%	支援開始前・後で役割分担について話し合い、うまくいったかどうか、改善の余地があるかどうか話し合っただけで次の療育に生かしていません。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	86%	0%	14%	昼食を毎日行っている。時間がなく全部のケースについて共有できていない場合もあるので時間の使い方を工夫し全てのケースの共有に努めていきたい。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	0%	日々の支援はきめ細やかに記録を取り、次の療育に生かしてまいります。
	20	定期的にモニタリングを行い、支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	0%	半年に一回のモニタリング面談に加えて随時保護者からの要請があれば支援計画を修正追加してまいります。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	0%	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	0%	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0%	100%	0%	重症心身障がいをもつお子さんを受け入れた経験がない。今後そういったケースがあればきめ細やかな連携を行っていきたい。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0%	100%	0%	重症心身障がいをもつお子さんを受け入れた経験がない。今後そういったケースがあればきめ細やかな連携を行っていきたい。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	0%	0%	100%	保護者からの要請のあったケースのみ情報の共有を行っている
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	0%	0%	100%	保護者からの要請のあったケースのみ情報の共有を行っている
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	14%	0%	86%	保護者からの要請のあったケースのみ情報の共有を行っている
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0%	100%	0%	機会があれば保育所や認定こども園、幼稚園等との交流を行ってまいります。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	100%	0%	0%	療育に支障のない限り区の子ども部会への参加をしております。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	0%	毎回保護者には様子をお伝えするが見学してもらっていますので日々の子どもの状況の共通理解に努めております。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	100%	0%	0%	月1回の保護者研修に加えて年に2回のマザーズクラブはコロナ禍の後実施できておりません。	
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	0%	契約時及び随時必要に応じて説明を行っております。	
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	29%	0%	71%	現在はオフィスぼんで共通した項目「学習」「身辺自立(ライフスキル)」「余暇」「行動管理」「コミュニケーション」などの領域から目標が設定されている。随時ガイドラインに沿った支援計画に変更していく。	

		チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いえない	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	0%	保護者からの要望があれば事業所内相談を行っています。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	29%	71%	以前は行っていたが、現在保護者会を開催していない。今後検討していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	0%	相談や申し入れがあった場合、できる限り迅速かつ適切に対応しております。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	57%	0%	43%	会報は発行していませんがホームページでブログを公開しています。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	0%	鍵付きの棚に保存するなど個人情報の流出にできる限り配慮しております。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	71%	0%	29%	コミュニケーションの問題がある方にはアプリを使ったり、筆談を交えたりして説明を行っている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%	0%	地域住民等と開かれた事業運営ができていない。個人情報の保護に努めながら会を開催できる方法を模索していく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%	0%	非常時のマニュアルや避難経路を保護者がいつでも確認できる場所に設置しております。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	0%	月に1回、防災訓練を実施し、防災訓練日も掲示しております。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	0%	医療的ケアの必要性のある利用児童の把握は初回面談時に行っております。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	71%	0%	29%	保護者からの訴えや書面でアレルギーの確認を行っています。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	43%	0%	57%	ヒヤリハット事例集について職員間で周知を行っていきます。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	0%	内部・外部の研修で虐待防止の講義を受け職員間で共有を行っております。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	43%	0%	57%	「身体拘束に関するガイドライン」を決めて職員間で周知徹底し掲示しているが、保護者に説明までは至っていない。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。